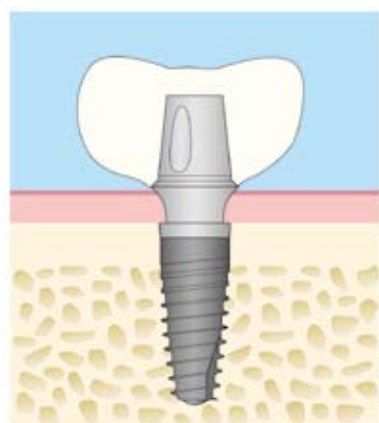


アルファタイトインプラントの種類

アルファタイトインプラントには1回法インプラント1種類（SS-type）と2回法インプラント3種類（TF-type、F-type、SB-type）があります。また、1ピースインプラントとして直径3mmのインプラントをご用意しています。それぞれの特徴と長所および選択のポイント、そして短所を以下にまとめます。各種インプラントの長さ、太さ、そして寸法等の詳細につきましては、製品一覧カタログをご参照ください。



SB-type

【特徴】

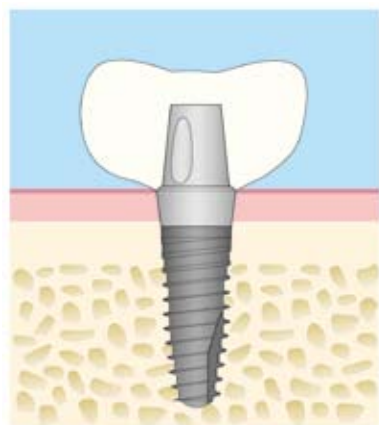
カラー部約0.7mmを持つ2回法インプラント
場合によってはバットジョイントにも対応します。

【選択のポイント】

- 1) すべての症例に対応します。
- 2) 骨面がフラットでない時や、埋入同時GBRの際、4壁回復が難しいと考えられる場合に選択してください。つまり、1次オペの際、骨内完全埋入が難しいと想定されるような症例で、GBRの結果、骨がどこまで回復するかわからないような場合です。
- 3) 直径3.3mm、直径5.0mmのインプラントもご用意しています。ご使用の際はケンテックにお問い合わせください。

【弱点】

特にありません。MJガイドシステムには対応していません。



SS-type

【特徴】

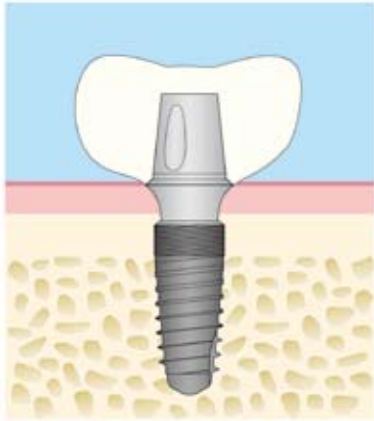
ITIコンセプトを持つ1回法インプラントです。
補綴物のマージンがフィクスチャーショルダーとなります。

【選択のポイント】

- 1) 従来から1回法インプラントを行っていた先生方に使って頂きたいと思えます。
- 2) 他のタイプよりも強度が高く、高い咬合圧に耐性があり、細いインプラントでもある程度の咬合圧に耐えます。小白歯部にSS33を選択することが可能です。
- 3) SS46及びSS50はアバットメント中ネジがφ2.5mmと太くなるので、かなり強度が高いといえます。従って大白歯部単独症例に最適です。

【弱点】

補綴物マージンの自由度がないため、審美性を考慮する場合は向きません。
ショルダーの太さと形状からMJガイドシステムには対応していません。



F-type

【特 徴】

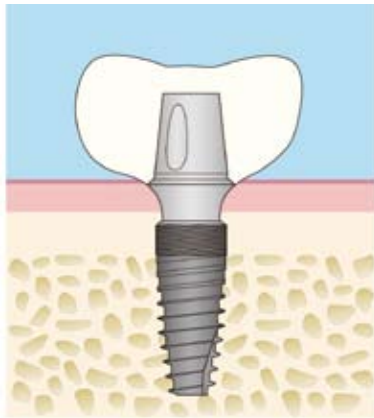
1mm以上の骨縁下埋入を前提としたインプラントです。長期的安定性を考慮しています。

【選択のポイント】

- 1) 骨面がフラットで、1mm以上の深埋めが可能な場合に選択してください。フィクスチャーホルダーに骨を乗せることを想定しています。
- 2) 上顎洞が近いなど、必要以上に深埋めしたくない場合に選択してください。ドリルの穿孔深さによってインプラントの埋入深さが決まります。またドリルプロトコルをしっかり守ってください。
- 3) 下顎の硬い骨で、ドリルプロトコルに則って埋入する場合に選択してください。高いトルクで埋入することを避けることができます。

【弱 点】

完全埋入が前提となります。
MJガイドシステムには対応していません。



TF-type

【特 徴】

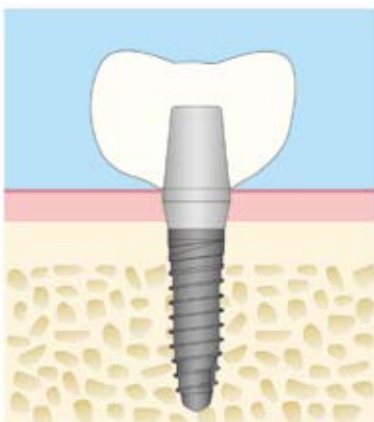
1mm以上の骨縁下埋入を前提としたインプラントです。長期的安定性を考慮しています。また自己穿孔能力を持っています。

【選択のポイント】

- 1) 骨面がフラットで、1mm以上の深埋めが可能な場合に選択してください。フィクスチャーホルダーに骨を乗せることを想定しています。
- 2) MJガイドシステムに対応したインプラントです。
- 3) D4の骨に細いドリル孔を形成し、フィクスチャーを固定しなければならない時に選択してください。

【弱 点】

完全埋入が前提となります。どんどん穿孔していきますので、必要以上の深埋めに注意しなければなりません。



OS-type

【特 徴】

直径3mmの1回法1ピースインプラントです。また自己穿孔能力を持っています。

【選択のポイント】

- 1) 1ピースインプラントを使用されていた先生方に使って頂きたいと思えます。
- 2) 骨幅がない臼歯部単独植立に使用します。

【弱 点】

支台歯の自由度が少ない為、歯列との関係、埋入方向に注意が必要です。また、MJガイドシステムには対応していません。

インプラントの種類に関する選択基準

アルファタイトインプラントは2) に示した5種類のインプラントがあります。各々のインプラントをどのような症例に使うべきかを簡単に示します。

① MJ ガイドシステムを用いたガイドドサージェリーを行う場合は必ずTF-typeをご使用ください。2014年6月現在、ガイドドサージェリーに対応したインプラントはTF37**MJとTF43**MJです。(図4)

以降はガイドドサージェリーを行わない場合です。

- ②骨が軟らかく (D4 もしくは D3)、十分な初期固定が確保できない (埋入トルク 10Ncm 以下) と思われる症例は2回法のインプラント (TF-type、F-type、SB-type) を選択すべきです。さらに植立後、暫間的な補綴をデンチャーで行う場合は骨縁下埋入のTF-type または F-type を選択すべきです。理由は植立直後の負荷を避けるためです。
- ③歯肉が極端に薄い場合はTF-type または F-type を選択し、深めの埋入を行って下さい。理由は骨吸収の防止とアバットメントの選択、作成を含めた補綴作業を行いやすくする為です。

④審美を考慮する場合はTF-type または F-type を選択してください。深めの埋入をすることによってカスタムアバットメントのカウントア設計の自由度が大きくなります。

⑤咬合圧が大きい場合、フィクスチャーショルダーで咬合圧を受けるSS-typeが有利です。簡単に言えばSB37、F37、TF37のインプラントよりはSS37のインプラントの方が高い咬合圧に対する耐力を持っています。またSS46、SS50インプラントは中ネジが直径2.5mmとかなり太くなりますので、極端に咬合圧の高い大白歯部単独植立にも適用可能と考えます。またSS33インプラントは小白歯部単独植立に使用可能な耐力を持っています。

※ケンテックでは骨の硬さや大きな咬合圧を想定した場合のインプラントの種類選択よりもMJガイドシステムを用いたガイドドサージェリーで、補綴主導のインプランテーションをして頂く方が優先すると考えています。それだけインプラントの適切な埋入位置と埋入方向は重要です。ただし、上記⑤に示した極端に咬合圧の高い大白歯部単独植立のSS46、SS50の選択だけは例外です。

